

Cotton Up



こっとなあつぷ Vol.112



合同浴場清掃に挑んだのは、5人の浴場レンジャー

力を合わせた合同浴場清掃から学ぶ、新しい利用者の力とは・・・

目次

- ・「W・D・S・N 35」 ～信頼と経験が導く成功～ <2～4 ページ>
- ～実習生を受け入れて～ <4～6 ページ>
- ・「わたげ」での現場実習を終えて <7 ページ>
- ・後援会のご案内・ボランティアさん大募集中！！ <8 ページ>
- ・編集後記（編集部） <8 ページ>

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会

代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 2-11-6-109

（毎月1回15日発行） 購読料1部 15円

「W・D・S・N・35 (Watage Daily Support News)」

今回は2つの事例についてご紹介します。

～信頼と経験が導く成功～

◆合同浴場清掃に至るまでの経緯について

これまでわたげでは2ヶ所の浴場清掃を請け負い、月・木曜日にあたり湯の浴場清掃に3名、火・金曜日に日の出浴場の浴場清掃に2名という形で行なっていました。そんな中、一方の浴場ご主人より、清掃曜日の変更が可能であるかのご相談を頂きました。希望の曜日が2ヶ所重なるため、職員全体で検討した結果、月曜日のみ、浴場2ヶ所の合同浴場清掃実現に踏み切りました。

まず、午前中に1ヶ所目の浴場に行き、男湯は日の出浴場チーム、女湯はあたり湯チームという形で同時進行で清掃を行います。その後、もう一つの銭湯に移動し、お弁当を食べてから、男湯・女湯に分かれて清掃を行う事としました。今まではどちらも午前に女湯、午後に男湯の清掃を行っていたので、合同浴場清掃にすることで、1日で2ヶ所の銭湯の清掃が可能となります。これで先方の要望にも応えることが出来ます。

◆作業の分担、創出について

職員全員で浴場清掃の方向性を決めた後、各浴場の担当で打ち合わせを行いました。同じ浴場でも広さも違えば、求められている作業内容も違い、もっと細かく言えばイスや窓枠の形も異なるからです。自閉症の方達は環境の変化に弱さを見せる場合がある為、細かい点まで打合せました。

それぞれの浴場の広さ、洗う箇所、形状を調べ、現状行っている浴場清掃に合わせた形で補助具を作り直しました。また、あたり湯で行っていた銅版磨きが、日の出浴場では無くなるため、銅版磨きを担当していた利用者さんは新たな作業種を獲得する必要がありました(左下写真)。逆に、日の出浴場の利用者さんは新たにあたり湯での銅版磨きの活動を獲得する必要がありました(右下写真)。誰をどの仕事に行ってもらうのか、細かく作業種を細分化し、現状行っている利用者さんの評価を基に、各利用者さんの作業能力を活かす形で割り振りを行いました。



銅版磨きの代わりに洗面器磨きの獲得



銅版磨きの獲得

自閉症の方にとって環境の変更は非常に大きなものです。担当同士での話合いで、変更点を極力少なくするため場所と清掃の工程順が変わるのは避けられないので、各浴場で利用者が担う役割は、極力同じ物にする事を決めました。場所が変わる事はご本人達にとって大きな変更ですが、同じ役割がそこにある事で受け入れも早く、本来持っている力をより早く発揮出来るようになるはずと考えたからです。

もう一点の課題は移動時間を含めた清掃終了時間の問題です。清掃作業終了時刻は浴場の営業時間の都合により変更が出来ないので、移動時間の分だけ、作業時間を短縮する必要があります。各利用者の能力に応じ、役割及び量の増減も検討しましたが、最終的にはまず、今まで通りの役割と、作業量で、決められた部分を精度良く行う事を大切にしました。

◆伝達方法

合同浴場清掃の開始日程が決まり、次に個々の利用者への伝達方法について打ち合わせを行いました。今までとは異なる浴場清掃の流れを伝えたり、新しい取り組みへの不安軽減のため、利用者ごとの評価を基に、個別に伝達の時期と方法を設定し、伝達する文書やカード等を作成しました。週に1回、2箇所を移動して清掃を行う日があること、その開始日、清掃の順番、同行する利用者と職員、出発から戻りまでの一連の流れが主な内容となります。利用者によって、事前に詳細に伝えた方がよい人もいれば、直前にシンプルな形にして伝えた方がよい人もいますなど、様々です。

この伝達方法は、彼らの今までの経験を基に、一連の流れを視覚的情報に変えて提供することで、安心して職員と一緒に施設外で活動することが出来たという積み重ねの上で工夫しました。



◆実際に行なって

今回、合同浴場清掃を実践し、担当利用者全員が清掃場所は変わっても、今まで通り、落ち着いて清掃を行う事が出来ました。しかし、あたり湯チームと日の出浴場チームとでは清掃の時間に差が生じたため、男湯清掃を行っているチームが早く清掃が終わったら、終わっていない女湯のフォローに入るようにし、利用者にも伝達し、自分たちの清掃箇所以外の部分も担うことを支援しました。そして現在では、早く清掃が終わったチームが、終わっていない側のフォローにスムーズに入る事が出来ていて、効率良く2ヶ所の清掃を行うことが出来るようになりました。



実習の前には、本人やご家族へ実習の内容について説明する時間も作っていただきました。わたげではどのように過ごすのか、どんな活動をするのかなど、実際の場所を見ながら一緒に確認をしました。親御さんからは実習を行うにあたって挑戦してみたいこと、心配なことなどをお聞きすることができ、より具体的でご本人の状況に沿った準備を進めることが出来ました。



活動に中心の作業、作業機の横にはスケジュール、作業場の斜め横には休憩場を用意しました。いつ、何処で、何をするのか、理解して過ごす事が出来ました。

実習を行う上で大切にしたいのは「今できていることを活かすこと」「安心感と自信を持って5日間を過ごせること」でした。

普段は同年代の仲間の中で、馴染みのある場所で毎日を過ごしている生徒さんが、初めての場所で、自分より10も20も年の離れた大人達の中で、学校での活動とは違う「作業」をする。もし自分が生徒さんと同じ立場になったら…。考えただけで緊張や不安を感じます。そんな環境に飛び込んでくる生徒さんにどのような環境を準備すれば安心して過ごすことができるのか…。一日の流れを知るために投げ所となるもの、本人の居場所は、具体的な活動は等、様々な条件を具体的な形にして伝わるようにしていきましました。

学校では、一日の予定を項目ごとに文字とイラストで示したカードを順に並べたスケジュールを使っていました。スケジュールの意味を理解し、活用することができている様子でしたので、同じ形のスケジュールを用意し、生活に見通しが持てるようにしました。馴染みのある形であったため、初日から使いこなすことが

出来ました。場所が変わってもスケジュールを投げ所にして安心して過ごす事が出来るのだ、ということを経験を通して感じてくれたのではないかと考えています。

作業は、わたげで行っているケーブルの解体作業を用意しました。初めは簡単な作業から、徐々に道具を使う作業に取組んだり、作業量を徐々に増やしていったりと、生徒さんが挑戦したいという気持ちを引き出しつつ、且つ負担にはならないよう記録を取りながら取組んでみました。最終的には3種類の作業を4種類の作業道具を使い分けて行うことが出来ました。作業種を見て必要な道具を自分で準備したり片付けたり、積極的でした。「使ったら片付ける」が身につけている生徒さんを見て、自分の行動を反省させられました…。

学校の休憩時間では音楽を聴いて過ごしているとのことで、作業以外の時間は本を読んだり音楽を聴いて過ごしました。好きな活動をどうすれば自分で区切りを付けて終える事が出来るか工夫をしました。

実習3日目、生徒さんが突然「明日学校」と言うことがありました。実習は5日間であることは予定表で伝えていたのですが、今までにない不安そうな顔で私に繰り返し「明日学校」と言ってきます。この状況だけ見ると「もう実習したくない」というように解釈してしまいそうです。しかし、生徒さんが本当に言いたいことを何とか聞き出そうと、まずは一週間の予定表を見て実習は5日間であることを再度説明しました。それでも「明日学校」は続きました。もしかしたら「学校はいつからなの」ということなのかも、と思い、その場で予定表の下にメモ紙を付け、土日は自宅、月曜からは学校であることを日付と文字とイラストで伝えました。すると予定表をジッと見つめた後、すっと右手を挙げてくれました。

生徒さんはこれまで他の事業所にも実習に行った経験があり、5日間の実習が終われば学校ということは理解している、と思っていました。私にとってはこれまでと同じ実習、でも生徒さんにとって、今回の実習は新たなことです。私の不徳の致すところでした。もっと丁寧に伝える必要があったことを反省しました。それでも具体的なものがあることでそれを介してお互い言いたいことや伝えたいことを、お互いに理解出来る方法でやりとりすることができたことは、良かったと感じています。(でも、この場面が5日間で一番どきどきしましたよ)

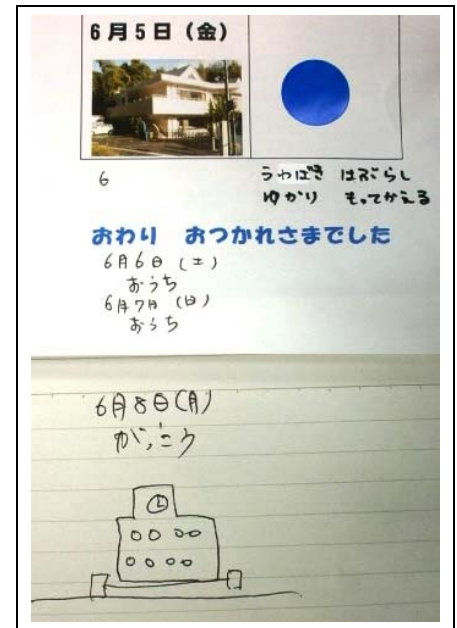
この5日間は、私にとってとても貴重な時間でした。

事前の準備から始まり、実際の当日を迎えるまでは本当に緊張していました。生徒さんが時折見せてくれる笑顔、作業は日に日に上達していき、こなせる量も増えたり、自分でやりたい作業を選ぶことが出来たり…、そんな様子にたくさん励まされながら5日間を過ごすことができました。「今日はこれが出来たから明日はこれに挑戦してみよう」「あのとき生徒さんはどんな気持ちでこうしたんだろう」「ここは上手く伝わらなかったからこう変えてみよう」と日々考え、目標を持って取り組む事が出来ました。「大事な5日間、失敗があってはならない」という意気込みはありましたが、それ故に「こうでなければならない」という形にこだわった対応にならないよう、柔軟な気持ちと対応を心掛けました。毎日、自分の行動を振り返りながらの実習でした。そんな私は、生徒さんにとって「頼りになるおばちゃん」でいられたでしょうか。

実習の前段階から親御さんや先生方には沢山のご協力をいただき、本当に有り難うございました。至らない点多々あったと思います。

私が実習を通して得たものがあつたように、生徒さんにとってもこの実習がよい経験として残ってくれば、とても嬉しいです。

海江田 笑子



今回の実習について、親御さんからご寄稿いただきました。

「わたげ」での現場実習を終えて

岩戸養護学校実習生保護者

まず、この度の現場実習を受けて下さった、わたげの後藤施設長並びに職員の皆様に感謝申し上げます。

息子はこれまで高校2年生時に2回の現場実習を行ってきました。3年生になり、いよいよ現場実習が卒業後の進路の選択としての意味が強くなり、私たち両親としても、今回の実習先が卒業後の進路の選択肢の一つとして考えたいところでした。しかし、わたげは既に定員を満たしており、たとえ実習を行ったとしても、選択肢の一つには成り得ないことは承知しておりました。それでも、わたげを実習先として選ぶ理由としては、TEACCHプログラムを実践していること、運営がたんぽぽの郷であることから職員の自閉症への理解、知識が豊富であることでした。実習を行うにあたり、理解のある方々の元で作業することで、安定した日々を過ごし、達成感や充実感を得て欲しいと考えたからです。

そして、事前訪問時の綿密な打ち合わせや実際の作業場を見学させていただくうちに、本当に職員の自閉症への理解が深いことを実感し、実習先として選んだ事を良かったと感じました。

一週間という短い間でしたが、実習終了後の報告を頂いたとき、息子は本当に充実した日々を過ごしたのではないかと思います。特に私たちが心配していた休憩時間の過ごし方についても、作業場所と休憩場所をわけることで、その場所で何をすればよいのか明確にわかるようにし、休憩時に聴く音楽も1曲聴いたら終われるような工夫をしていただきました。

また、作業についても、息子に合わせた作業量、作業時間を設定していただいたことで、集中して作業に取り組めたのではないかと思います。これも、職員の皆様の自閉症への理解と環境を整えてくださったからこそだと感謝しております。改めて、スケジュールの提示、自閉症の特性に合わせた環境の整理が重要であると感じると共に、私たちも実習を通して見えてきた息子に対する課題にも積極的に取り組む必要があると感じました。

これから、3年生の2回目の実習が始まろうとしています。実習先並びに進路先を決めるにあたり、今回のわたげでの経験が息子だけでなく私たちにも役に立つことは間違いありません。その経験をさせて頂いたわたげの職員の皆様や利用されている方々にはご迷惑をおかけしましたが、本当にありがとうございました。



たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、ともに生きる仲間として、地域で生活していくために必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474

郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



ボランティアさん 募集中

わたげ・ふあず・こっとなはうすで自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？

作業の検品、余暇活動の支援、清掃等

お手伝いをしていただけの方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わたげ 電話:046-844-0038 (担当:かいえだ)

E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふあず 電話:046-888-3961 (担当:しょうじ)

E-mail: adz13970@ams.odn.ne.jp

こっとなはうす 電話:046-852-8355 (担当:いもうじ)

E-mail: tanpoonosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp



編集後記 ～編集部～

「おむすびください」。あるスーパーのレジ袋の取っ手部分に印字されていました。当然、「(商品がこぼれ落ちないように)お結び下さい」ですね。でも私は、「おむすび、ください」と読んでしまい、「なんで?!」と驚きました(一瞬ですよ...)。丁寧に「お」を付けているんだろうけど、「むすんでください」の方が分かりやすいのになあと思いました。わたげ・ふあずの作業のひとつに、ボール紙に折り目をつける作業があります。折った紙を重ねずに置いている方に対し、「重ねてください」と声をかけました。すると、重ねた後、私に差し出すのです。勢いよく持ち上げると破れる可能性があり、私は慌てて止めました。その後2回、私は同じ言葉をかけ、持ち上げないでと説明もしましたが、その方は同じ行動を繰り返しました。ふと、気付きました。3回目、「重ねて」とお伝えしたところ、重ねるのみで差し出すことはしませんでした。伝えたことを、そのまましてくれただけなのに申し訳ないことをしたと思いました。社会人としてのお付き合いですので、敬語の使用が基本だと思います。ただ、私が勘違いしたように、丁寧にし過ぎることで分かりにくくなってしまふ方、ニュース原稿のような長い文章の方が分かりやすい方、好きなアニメのセリフ形式が分かりやすい方などさまざま。大切なのは、相手に分かりやすい言葉であること。ただし、相手に不快さを感じさせない言葉であることは徹底して...とひとり呟きながら、夕ご飯の材料を手スーパーを出た庄司でした。ぐっと寒くなってまいりました。みなさまどうぞご自愛ください。(庄司)